

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] キャソマイシンによるトマトかいよう病の防除

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄 (抄録) , Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015232

キャソマイシンによるトマトかいよう病の防除

(脇本哲, 植松勉, 水上武幸: 日本植物理学会報 33(2): 112 1967)

ろ紙阻止円法により, 比較的大型の阻止円を形成した10種類の抗生物質を使用し, 茎に病原菌を針接種したトマト苗にこれらの100ppm液を散布した結果, 顕著な防除効果は認められなかった. すなわち, 植物体の地上部表面から吸収される薬剤濃度ではすでに侵入した菌を阻止するにじゅうぶんでないものと考えられる. つぎにトマト苗の根部をこれらの薬剤100ppm液につけ, 1夜お

いて移植後病原菌を茎に針接種した. この場合各薬剤の防除効果は, キャソマイシン, バンコマイシン, テラマイシンの順にいちじるしくあらわれた. これらの中で, テラマイシンは葉害が大であり, バンコマイシンは防除効果の持続性に乏しく, キャソマイシンがもっとも有望と認められた. 1966年長野県の現地圃場でトマト苗を100ppmのキャソマイシン溶液(水温10°C)に1夜つけて移植し, 以後の発病状況を観察した結果あきらかな発病抑制効果を認めた. この根部浸漬法は, わが国では実用化の可能性が高いものと思われる.

(抄録 田盛正雄)